

次の文章は唐の太宗、李世民(在位六二六〜六四九)が語った言葉である。これを
読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

ちん クしんノぶてい より たひらげし べついじ
朕聞晋武帝自平 吳已後、
我が聞くところによると、晋の武帝は、吳を平定してから後は、

つとメリ けつじやニ タとどメ ヲちせいニ
務在 驕奢一、不 復留 心治政一。
驕って贅沢をむさぼり、 決して政治に心を留めなかった。

かそつじりぞキ てうヨリ ぶヨリ ノ せいニ ハク
何曾退 朝、 謂 其子劭 曰、
何曾は朝廷から退出して(帰宅し)、子の劭に語って

われごとニ まみユル しゅじやうニ ぜ けいこくノえんとヨ
「吾每 見 主上一、不 論 經 国 遠 凶一、
「私が君主にお目にかかる度に、 (君主は) 国家を統治するために通り将来のことを論じないで、

たダ とク へいせいノ ヲ これザル のこス その ニ 二 なり
但 説 平生 常語一。 此 非 下 貽 厥 子孫 一 者 上 也。
ただ日常の平凡な話をするだけだ。この方は子孫に(将来の帝位を) 残す(ことのできる) 人物ではない。

なんぢガ みハ なホ ベシ もつテまぬカル
a 爾 身 猶 可 以 免 一。
おまえの命はそれでもやはり、禍を免れることができるのだとつ」といふ、

サシテ ヲ ハク これラ ズあヒテ ニ セント
指 諸 孫 曰、 「此 等 必 遇 乱 死 一。
(しかし、) 孫たちを指さして 「この者達は必ず乱に遭遇して死ぬだろう」と言った。

ビ ノすいニ はたシテ ナル いんけいノト ころス
及 孫 綏 一、 果 為 淫 刑 所 戮 一。
孫の何綏の(大人として活躍する) 時代になって、(何曾の予言どおり) 結局、不当な刑罰によって殺され

ぜんし ほメ これヲ テス あきらカナリト せんけんニ
b 前 史 美 之、 以 為 明 一 於 先 見 一。
た。昔の歴史書はこの者(=何曾)を賛美して、(何曾には) 先見の明があるとしている。

朕意不^ガレ然^ハ。謂^{シカラ} 曾之不忠^{おもへラク}、其罪大矣^ハ。
(しかし、) 私の意見はそうではない。思うに、何曾の不忠については、その罪は大きい。

夫為^{そレ} 二人臣^{リテハ}、
そもそも、臣下たるものは、

当^ニ下^{ミテハ}進^ヒ 思^レ竭^{ツクサンコトヲ}、
(朝廷に) 出勤しては誠を尽くそうと思ひ、
レ誠^{まことヲ}、退^{キテハ} 思^レ補^{ハントトヲ}、
(朝廷から) 退勤しては君主の過ちを補おうと思ひ、
レ過^{あやまちヲ}、

将^{しやう} 二^{じゆん} 順^し 其美^ノ、
将に美徳があれば助け従ひ、君主に過失があれば正して救うべきである。
匡^{きやう} 中^{きつ} 救^ス 其惡^ノ上^ヲ。

所^ニ以^ス 共為^フ 一^{なり} 治也^ヲ。
(これこそ) 共に政治を行う方法である。

曾位極^{くわい} 二^い 台司^メ、
何曾はその位は官職の最高位を極め、爵位やそれに見合った車や衣服は尊く重んじられている。
名器^{なう} 崇重^{すうちよう} 。

当^ニ 直^{なほクシテ}、
当然、(君主に対して) 言葉^{じゆせい}を率直^{いかんじ}にして諫め正し、道を論じてその時代の政治を助けるべきだ。
レ辞^{ジテ} 正諫^ヨ、論^{たすク} 道^と 佐^{キリ} 一^レ 時^{トキヲ}。

今^{いま} 乃^{すなはチ} 退^{キテハ} 有^リ 二^{こうげん} 後言^{ごげん}、
(それなのに) 今(挙げた話では) 退勤して陰口をたたき、出勤しては朝廷で強く意見を言うことがない。
進^{ミテハ} 無^シ 二^{ていぎう} 廷諍^{ていぎう}。

以^テ 為^ス 二^ト 明智^ま、不^ま 二^ま 亦^あ 謬^ま 一^ま 乎^{ナラ}。
それを(前史で先見の明があつて) 明智だと言つのは、なんと誤りではなかつたか。

顛^{たふレテ} 而^ず 不^{ンバ} 扶^{たすケ}、安^{いづクンゾ} 用^ヤ 二^か 彼相^{しやうヲ} 一^ヲ。
倒れたときに助ないならば、そのような補助者を任用するだろうか。いや、任用などしない。